

番 号 1

平成23年2月23日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 14番 伊藤 邦彦

		平成23年2月23日 午前8時30分 受領
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問
発 言 の 要 旨		備 考
<p>◎議員報酬と職員給与について</p> <p>議員報酬の引き下げについては、議員各位に、「今なぜ」の私ども会派の思いを示した資料をお配りし、ご検討をいただいているところでございます。現在、農業・工業・商業のすべての分野において、かつてない厳しい状況が続いております。</p> <p>今年度も、国保税の引き上げ等、市民の方々には、さらなるご負担を願わなければならないようであります。</p> <p>ならば、まず市民の代表である私ども議員自ら、身をけずる姿勢を示さなければ、市民の理解は得られないものと考えます。</p> <p>議員各位とは更なる議論を深め、ご理解、ご賛同をいただき、全会一致のもとに、6月定例会には条例案を提出したいと思っております。</p> <p>又、職員の給与についてであります。納税者である市民が、これだけ落ち込み痛んでいる時、そこから給与をいただいている立場の職員の方々が、横向きの姿勢であってはならないと考えます。</p> <p>職員それぞれに、ご事情はあろうかと思いますが、少しずつ、少しずつ、力を出し合い、互いに助け合い生きていく・・・それが人間社会ではないでしょうか。</p> <p>給与引き下げで生まれた財源で、国保税値上げストップ・医師確保により田沢湖病院救急病院指定復活等、市民の願いのその声に、答えていく事が出来ると考えるものであります。</p> <p>職員のラスパイレス指数89は、全県下最も低い位置にあるが、一般市民のラスパイレス指数を計るならば、おそらくは30以下と思われれます。減額分は労働時間の減少等で調整するとし、この件につき、職員組合と交渉に入る必要性を感じないか、当局のご所見を伺いたい。</p>		

◎仙北市危機管理について

昨年夏の、豪雨による災害は、記憶に新しいところである。仙北市は豪雨はもとより豪雪地帯でもあり、突風も多く、深く険しい山があり谷がある。加えて今なお噴火が続く、九州霧島連山の新燃岳同様、活火山である駒ヶ岳がそびえている。さらに目をむければ、隣国からミサイル砲が飛んできている。また、先般、鷹巣病院で発生したインフルエンザ集団感染・牛や鶏の伝染病等、危機感を持たなければならない事項がたくさんある。これらの危機に対し、書面上のマニュアルが作成されてはいるが、機敏に機能されるのか誠に危惧される所である。

危機に対し、日頃から意識を高め、訓練により身に染みこませる事が大事であろうと思うが、職員、まして市民にはその意識は薄いと感じる。

「市民の生命と財産を守る」この上に立ち、防災指導専門員を置き、職員並びに市民の危機に対する志気、高揚をはかる必要があると思うが、お伺いする。

◎知事が知事であるうちに・・・

佐竹知事がいつまで知事職にあるか・・・。

神のみが知ることはあるが、仙北市出身の知事であるこの今、ふるさと仙北市にお力をいただきたいと考える。

*私が思う知事への願い

○「観光産業育成」のため誘客の環境づくり（道路・鉄路の整備）

- ・ R 46 号、105 号の 4 車線化
- ・ 潟野・潟尻間、観光路線の整備
- ・ J R 田沢湖線の複線化
- ・ 新幹線こまち一番列車と最終列車の角館駅、田沢湖駅への停車
- ・ 内陸線存続へ向けての対策

○職場づくり（企業誘致等）

- ・ 職場があれば若者定住、少子高齢化など、諸問題のあらましが解決に向かう。

○仙北市を天下に P R するために・・・。

- ・ 角館高校野球部を甲子園へ
- ・ NHK のど自慢の誘致
- ・ ジャンプ台を整備し、冬季国体の誘致

知事が知事であるうちに・・・

◎国会議員、知事、県議、JA組合長合同会議開催について

当局と私どもは、仙北市の市政を議論する立場であるが、それにとどまらず、国政を語り、県政を語り、又、農政を語ることはできないか。

仙北市を発展させるために、私どもはそれぞれの思いを直接対話で訴え、願うべきは願い、出来ないことはその訳や意図を伺いたいと考えるものである。これまでの当局の奮闘には敬意を表するものであるが、10人よれば・・・のたとえのごとく、当局と議会の英知結集で合同会議開催に向かうつもりはないか。

◎クニマスの里帰り 垂天池沼へ・・・

70年ぶりにクニマスが山梨県の西湖で発見され、仙北市内外の大きな反響を呼んだ。

クニマスも、祖先の生まれ故郷に帰る日を長く待ち望んでいたと思うが、その実現には更なる長い年月を必要とするであろう。

クニマスが生きられる田沢湖の環境整備、それは湖水の除毒、発電事業への影響、仙北平野の水瓶としての役割など、なさねばならないことが山積する田沢湖復活に向け、なすべきことを進めながら、一案としてクニマスを上桧木内の垂天池沼へ呼べないものか・・・。

当垂天池沼は、標高760[㍎]、面積40,000[㍎]、深さ13[㍎]、湧き水であり、水温は常に5℃～15℃を保ち、四季を通して枯水の心配はない。クニマスの垂天池沼への里帰りについてのお考えをお伺いしたい。

◎民間移行される市施設について

田沢湖清眺苑が市から民間に移行され、又、この春より、角館寿楽荘とさくら苑も市から社会福祉協議会に移行される。

今後もこの種の事業が計画されると思うが、移行に伴う工事及び物品納入等については、地元企業、地元商店に経済効果が波及されるよう、配慮すべきと思うが、いかがか。

上記のとおり通告します。

平成23年2月23日

仙北市議会議長 佐藤 峯夫 様

仙北市議会議員 6番 田口 寿宜

		平成23年2月23日 午前11時22分受領	
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問	
発 言 の 要 旨			備 考
<p>～人口減少～</p> <p>合併当初、31,000人以上いた市民が、先般実施された国勢調査の結果から、ついに30,000人を切る事態となった。要因は様々であるが、市の予測よりも早いペースで人口減少が進んでいる。雇用対策、少子高齢化対策等、様々な課題に危機的意識を持ってしっかりと取り組み、これらの問題を解決していく事が、人口減少に歯止めをかける解決策の一つと考える。市が目標としている定住人口は何人なのか。また、この問題の解決策をしっかりと考え実行しているのか。</p> <p>～文化～</p> <p>文化にはいくつかの定義があり、様々な種類があるが、仙北市の「文化」に対する考え方について、次の2点を伺う。</p> <p>1) 今後の文化的な施策について</p> <p>生保内節をはじめとする民謡、まつり、郷土芸能や伝統芸能、色々な歴史等々、当市には多くの貴重な文化が存在する。これらは希薄になっている人と人とのつながりやコミュニティの再生には、大変重要な要素である。地域の元気創造・再生の為に、文化的な施策に対しても、しっかりとした取り組みが必要であると考えますが、当局の考えを伺う。</p> <p>2) 2014年度に秋田県において、「文化の国体」とも言われ、多くの文化的事業が開催される、国民文化祭の開催が決定した。秋田県の中でも屈指の文化的素材が集結している当市でも、多くの事業を招致し、</p>			

文化的交流の促進、そして交流人口を増やす絶好のチャンスととらえ、体制を整えて取り組んで行くべきと考えるが、当局の考えを伺う。

～観光～

- 1) 「食」について、色々な制約等があると思うが、各種観光施設において、地域内経済が活性化するよう、もっと地場の物を使用する環境づくりに取り組むべきと考えるが、どうか。
- 2) 施政方針に、デスティネーションキャンペーンについて触れられていた。平成23年度は秋田県がミニデスティネーションキャンペーンの指定を受けているとの事である。このキャンペーンは、様々な面で絶大な効果を発揮するものであり、当市も本気度 100%で、県をはじめ関係機関と連携をし、積極的な取り組みを展開すべきと考えるが、具体的な動きはあるのか。
- 3) 観光戦略会議からの提言書の中で、田沢湖畔拠点特別分科会において、「国際型レクリゾートを目指し、日本ではまだ認められていないカジノを誘致する為の調査」という項目があった。このカジノは、色々な方面で議論されることが多いが、国際的な観光戦略を行っている当市にとっては、大変興味深い提言であると考ええる。このカジノ構想についての考え方を伺う。

上記のとおり通告します。

平成23年2月22日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 1 番 高 橋 豪

		平成23年2月22日 午前9時46分 受領
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問
発 言 の 要 旨		備 考
<p>◇平成23年度における地域ブランド戦略について</p> <p>22年9月定例会において「田沢湖・角館」ブランドロゴマークに関する予算が計上され、その後ロゴマークが作成された。全国各地で地域ブランド戦略が展開されている中、本市においてもその第1歩をスタートさせた訳であるが、今後はロゴマークにとどまらず恒久的な地域ブランドを確立していくために、更なる戦略の展開が不可欠であると考え。市長公約である「所得10%UP」達成を期待して、この地域ブランド戦略に関して次の点を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、これまでのブランド戦略の効果等について 2、平成23年度における新たな戦略の展開について 3、9月定例会で市名の変更について伺ったが、その後市民や一部団体などでは少しずつその機運が高まっているようである。そうした現状を受けて市長の考えに変化はあるのか？ <p>◇平成23年度における「子育てへの支援」について</p> <p>次世代を担う子供達に対する支援については、市長公約においても安心して子供を産み育てることのできる環境づくりを行うこととされており、現状の課題をできるだけ速やかに克服し、そうした環境整備に積極的に取り組むことが求められている。そこで次の点について伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、本市における「子育て支援」について、これまでに課題としてどういったものを認識されているのか？ 2、中でも大きな課題としては、これまでも幾度となく議論されてはいるが、保育所の待機児童の問題が挙げられる。平成23年度においてはどのような対策を打ち出されているのかを伺うとともに、23年度のみならず中長期的な考えも伺う。 		

3、子育て支援をはじめ若者の定住政策等については、近隣自治体とのサービスの差が若い市民の間で取り沙汰されていることは以前にも議論したが、平成 23 年度においてはこうした課題にどのように取り組まれるのか？また、今後の展開についても伺う。

◇赤川都市下水路の改良について

角館町上菅沢国道 105 線沿いから岩瀬西下夕野地区玉川までの赤川都市下水路は、その計画排水量を上回る水量により、豪雨の際にはこれまで何度も氾濫を繰り返しており、昨年 7 月～ 8 月にかけての集中豪雨の際も水路周辺の市街地では浸水被害に見舞われている。赤川都市下水路は、角館地域の主要市街地における雨水等排除において極めて重要な水路であるが、近年「菅沢ニュータウン」を始めとした多くの住宅等が建設され、こうした市街地の発展とともに、その排水量がすでに限界であることは承知のとおりである。この都市下水路が常習的に浸水被害をもたらすことを一刻も早く解決するべく次の点について伺う。

- 1、赤川都市下水路についての問題点や、改良等の必要性についてどのように認識しているか？
- 2、今後の改良計画について

上記のとおり通告します。

平成23年2月23日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 4番 平岡 裕子

		平成23年2月23日 午前8時30分受領	
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問	
発 言 の 要 旨			備 考
<p>1. 子育て支援と保育体制について</p> <p>①次年度の入所希望状況で待機・保留児童はいるか。</p> <p>②正規職員が減少していく中で、保育所運営は良い方向に流れていくか。</p> <p>③市長が各保育園を巡回しての感想、施政方針との関連について伺いたい。</p> <p>④「子ども・子育て新システム」についての見解はどうか。</p> <p>2. 国保税について</p> <p>①医療費抑制のために取られてきた具体的施策の効果はどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検診受診状況 ・ ジェネリック薬品使用状況 など <p>②国保加入者の所得は落ち込んでいる。減税は考えられないか。</p> <p>③現在の収納状況はどうなっているか。</p> <p>④滞納者対応についてはどうか。</p> <p>3. TPP問題について</p> <p>①市長の見解を聞きたい。</p> <p>②関税が撤廃された場合、本市への影響はどのようになるか。</p>			
上記のとおり通告します。			

平成23年2月23日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 21番 佐々木 章

		平成23年2月23日 午後10時25分受領	
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問	
発 言 の 要 旨			備 考
<p>1. 所得税確定申告と還付金問題について</p> <p>イ、調査委員会設置等に市長が「確定申告書の偽造の可能性が大である」との発言を報道機関にしているが、「確定申告書の偽造」と認識している根拠はどうであるのか。</p> <p>ロ、昨年12月7日からすでに仙台国税局が調査を開始しているようであるが、国税局から具体的な調査指示があり、それに従っての調査委員会であるのか。または市独自の考え方で調査委員会であり、事実関係を調査の上国税局への報告等も考えられるのか。</p> <p>ハ、市政報告の中の市県民税の決算額と調停額との乖離とはどういうことなのか、内容を伺う。</p> <p>ニ、県への告発文が昨年11月に投書されているが、2003年から2005年にかけて3年間の町県民税約2,500万円が職員の不正行為で減額されているとのことであるが、これも事実か。</p> <p>ホ、本事案については県への投書によって発覚したように思われるが、その内容は市（町）行政に関わった人間でなければ分からないようなものと感じるが、このような投書によって市政が混乱している現状についてどう考えるか。</p>			
<p>2. 市長と議会との距離について</p> <p>イ、12月定例会の開会のあいさつで、市長は議会の危機感のなさを指摘されたが、この意味はどういうことであったのか。</p>			

ロ、市長と議員とは一定の緊張感を持つべきと思っているので、事案によっては市政の推進力を双方で持つべきと思う。その職務については市長、副市長が大きな役割を果たすと思うが、現状はどうであるのか。

上記のとおり通告します。

番 号 6

平成23年2月23日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 12番 安藤 武

		平成23年2月23日 午前11時58分受領
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問
発 言 の 要 旨		備 考
<p>木質バイオマス施設について</p> <p>○当初計画に基づいた稼働が出来ない原因は何か。</p> <p>○プロポーザル方式での比較検討が出来ない中で、今のシステムの燃焼実験の結果はどうなっていたのか。</p> <p>○現状のままでの稼働は困難と判断し、現行システムを見直すとしているがどう見直すのか。</p> <p>○月島機械は瑕疵を認めているのか。</p> <p>○投資回収計算は最初から作り直す必要があると思うがどうか。</p> <p>○プロポーザル選定委員会の責任と、システム変更による選定委員会の関係は。</p> <p>○月島機械からの17,937,000円の負担金の根拠は。</p> <p>○本事業が、森林の管理・改善をしていくものではないので、森林対策として別の形で提案するとしているが、提案したのか。</p> <p>○耐用年数後のあり方、メンテナンス、費用対効果等を含めて再検討すべきでないか。</p>		
上記のとおり通告します。		

平成23年2月23日

仙北市議会議員 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 5 番 狐 崎 捷 琅

		平成23年2月23日 午前10時23分 受領
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問
発 言 の 要 旨		備 考
<p>1 市立角館総合病院の建築の財源について</p> <p>老朽化した市立角館総合病院は早急に再建する必要がある。市長は今年度中に、建築場所を決定し、26年度までに建築したいと言っているが、建築の財源と市の財政との絡みでお伺いしたい。</p> <p>現在、仙北市は実質公債費比率が20.4%で東洋週間経済エコノミストに全国ワースト110と書かれたほどである。これは、平成26年までは実質公債費比率は18%以下になると言っているが、病院を建築した後に再び実質公債費比率や実質起債制限比率、実質経常比率が大幅にアップすることにならないかと心配している。病院建築には75.5億円が必要であり、そのうち19億円は医療器具や医療機械とするとその他は土地購入の4.2億円と建築等にかかる費用である。</p> <p>合併特例債は15億円以上使われない。聞くところによれば70%国庫補助の過疎債は無理と聞く。そうすれば100%市負担の病院事業債と一般財源しか使われない。今でも悪い財政がさらに「あり地獄」のように落ちて悪化していかないか心配している。そこで市長にお伺いしたい。</p> <p>①財源を何から捻出しようとしているか。財政を平成22年に出した基本構想のとおり調達しようとしているのか。その際、将来の財政が圧迫されないか。数値をもって答えて欲しい。もし財政が圧迫されるとすれば、どのようにして一般財源を増していくつもりか。また、一円でも安く建築しようとする覚悟はあるのか。</p> <p>②場所を現在地から他に移動した場合、現在地の土地が塩漬け土地にならないか。</p>		

- ③現在地より北側に寄った場合、中仙の患者は大曲の組合病院の方に移動し、市立角館総合病院の患者は減ることにならないか。
- ④現在地は、ほとんどインフラができていますが、他に移動した場合にインフラ整備で財政が圧迫されないか。
- ⑤独立行政法人も視野に入れていく考えはあるか。

2 市道の除雪体制について

これは東前郷の住民の方から寄せられた声である。雪が降った際、市道は路線によって除雪の終了時間が定められているが、定められている時間より除雪が大幅に遅いため、小学校の子供たちが雪を漕いでバス停まで歩いているとの苦情が寄せられている。

- ①除雪時間は守られているか。
- ②除雪している区域毎に、除雪している会社名、責任者名、電話番号等を表示して除雪業者の責任を明確にしている市町村もある。当市でも仙北市の広報に載せることができないか。

3 「川の駅」について

国土交通省は全国880か所の道の駅づくりが終了し、「川の駅」づくりを始めた。最近では、道の駅や今ある施設と協働しながら川の駅づくりをしている。毎年「川の駅」の全国のフォーラムも開催されている。

仙北市は川に恵まれている。昔は山の木で筏を作り、米やその他の物資を積んでこの地域から秋田まで運んだそうである。

ところで、まもなく、先達のカヌーの国体コースに日本公認のカヌーコースができる。それに伴ってカヌーのスポーツハウスを事務所としてカヌーやゴムボートでの川下りのNPOを立ち上げるそうである。まさに渡りに舟、仙北市の観光にも非常に役立つと思う。ぜひ協力しあうべきでないか。

10人乗りのボートで先達を出発し、抱返りに寄り、芸術村に寄り、岩瀬橋のサッカー場に寄り、落合、中仙の「道の駅」に寄り大曲、神岡、秋田へ行く。「川の駅」は自然を大切に、観光に、スポーツに夢のある話だと思う。

- ①全国「川の駅フォーラム」IN大阪等の会議に職員を派遣し研究してみるつもりはないか。

4 外国資本による山林の買い占めについて

北海道で海外資本が山林を買い漁っているというニュースを見たが、最近知人から秋田市の近くの山林も中国資本が買いたってきているという証拠の写真を添付して送ってきた。また、お隣の山形でも山林が買われはじめていると秋田魁新聞が報じていた。

①仙北市で海外資本による山林の売買はないか。

②海外資本が買えないように前もって対策を講じる必要がないか。

上記のとおり通告します。